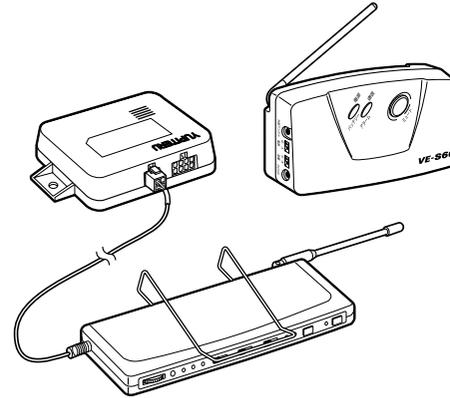


取扱説明書



このたびは、ユピテルの自動車盗難警報・通報装置をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

ご使用前に、この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。

なお、お読みになられたあとも、大切に保管してください。

また本機は、電波法第四条「技術基準適合証明を受けた無線局」および電波法施行規則第六条「特定小電力無線局」に該当するテレコントロールシステムです。

本機はセンサーにより本機取り付け車の異常を感知し警報または通報をする装置です。万一発生した盗難事故、いたずらなどによる損害・被害に対して保証はできませんので、あらかじめご了承ください。



■取り付けには、専門知識が必要です。
誤った取り付けは、機器を破損するばかりでなく、重大事故の原因となります。取り付けは、お買い上げの販売店またはカーディーラーにご依頼ください。お客様ご自身で取り付けられた場合の保証は受けられません。

目次	
はじめに	ご使用前に ----- ②
	各部の名称とはたらき ----- ④
	電源について ----- ⑨
操作方法	セキュリティの 設定と解除について ----- ⑩
	1. センサーについて ----- ⑩
	2. 動作モードについて ----- ⑪
	3. 遅延時間スイッチについて ----- ⑫
	4. セキュリティのセット方法 ----- ⑬
	5. セキュリティの解除方法 ----- ⑭
	6. スリープ機能について ----- ⑭
	7. テストモードについて ----- ⑭
警報／通報	センサーが 異常を感知すると(警報/通報) -- ⑯
	アフターサービスについて --- ⑰
その他	故障かな?と思ったら ----- ⑳
	仕様 ----- ㉓

ご使用の前に(安全上のご注意)

ご使用の前に、この「安全上のご注意」を良くお読みのうえ、正しくお使いください。ここに記載された注意事項は、製品を正しくお使いいただき、使用するかたへの危害や損害を未然に防止するためのものです。安全に関する重大な内容ですので、必ず守ってください。また、注意事項は危害や損害の大きさを明確にするために、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を「警告」、「注意」の2つに分けています。

警告: 警告を無視した取り扱いをすると、使用者が死亡や重傷を負う可能性があります。

注意: 注意を無視した取り扱いをすると、使用者が傷害や物的損害をこうむる可能性があります。

絵表示について

- △記号は注意を促す内容であることを告げるものです。
- ⊘記号は禁止の行為であることを告げるものです。
- 記号は行為を強制したり、指示を告げるものです。

警告

- ⊘ 水をつけたり、水をかけない。また、ぬれた手で操作しない…火災や感電、故障の原因となります。
- ⊘ コードを傷つけたり、無理に曲げたり、加工しない。また、コードが傷んだら使用しない…感電やショートによる発火の原因となります。
- ⊘ 運転中は絶対に操作をしない…わき見運転は重大事故の原因となります。
- ⊘ 穴やすき間にピンや針金などの金属を入れない…感電や故障の原因となります。
- ⊘ 機器本体および付属品を改造しない…火災や感電、故障の原因となります。
- 取り付けは、運転や視界の妨げにならない場所、また、自動車の機能(ブレーキ、ハンドル等)の妨げにならない場所に取り付ける…誤った取り付けは、交通事故の原因となります。
- ⊘ 煙が出ている、変な臭いがするなど、異常な状態のまま使用しない…発火の恐れがあります。すぐに使用を中止して、販売店に修理をご依頼ください。
- 万一、キャビネットを破損した場合は、すぐに使用を中止する…そのまま使用すると、火災や感電、故障の原因となります。
- ⊘ サービスマン以外の人には、絶対に分解したり、修理しない。また、改造はしない…感電や故障の原因となります。内部の点検や調整、修理は販売店にご依頼ください。
- ⊘ 付属のACアダプターは、家庭用AC100V以外では使用しない。
電源コードを傷つけたり、加工しない。また、コンセントの差し込みがゆるいときは使用しない…感電や発火の原因となります。

ご注意 使用上の制限

- ベースユニットの技術基準適合証明ラベルをはがさないでください。はがして使用すると、電波法により罰せられることがあります。また、分解したり改造することは、電波法で禁止されています。改造して使用した場合は、電波法により罰せられることがあります。
- 本機は、車に加えられた異常を感知して知らせるものです。そのため、盗難やイタズラに対して常に万全というわけではありません。本機の性能・機能を十分ご理解いただき上手にご使用ください。
- 本機とレーダー探知機を併用している場合では、本機のセキュリティをセットすると、レーダー探知機の警報が鳴る場合があります。本機を使用するときには、レーダー探知機の電源を切ってください。
- コピテル製エンジンスターターを併用する場合は、本機のカレントセンサースイッチを「切」にしてください。
- 他の無線機やテレビ、ラジオなどの近くで使用すると、影響を与えたり、受けたりすることがあります。

本機を取り付けての盗難やイタズラに関する損害、車の故障や事故などの付随的損害の賠償については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

ご注意 取り扱いについて

- 各ユニットやレーザーユニットを持ち歩くときは、落下などの衝撃を与えないでください。
- 各ユニットやレーザーユニットが雨水などで濡れないようにしてください。
- レーザーユニットを次のような場所に放置しないでください。
 - ・暖房器具の近くなど、温度の高くなる場所。
 - ・直射日光の当たる自動車内など、温度の高くなる場所。
- 湿度の高い場所や、風通しの悪い場所。
- ホコリや油煙の多い場所。
- 非常に温度の高い場所。
- 電気製品などの近く。
- 本機が汚れたときは、やわらかい布でふいてください。ポリエステルなど静電気の起きやすいもの、またベンジン、シンナー、化学ぞうきん、洗剤は使用しないでください。

ご注意 スリープ機能について

本機は、セキュリティ設定後、14日間エンジンが始動(ACC、またはONの検出)されないとき、バッテリー保護のためスリープ機能がはたら

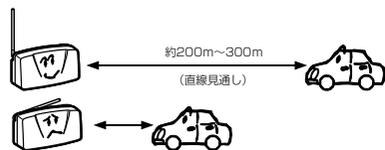
き、セキュリティの監視動作を停止してベースユニットやレーザーユニットのランプ表示が消灯します。

ご注意 通報エリア(通信距離)の目安

約200~300m(直線見通し/郊外)

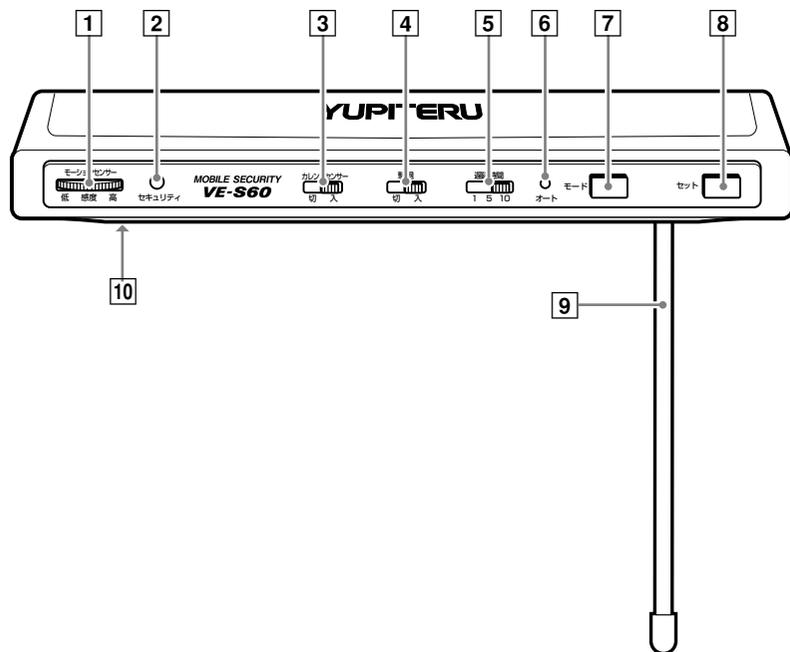
ベースユニットからの通報エリア(レーザーユニットの受信範囲)は、地形や建物などの条件や環境によって変化します。ビルの陰に入ったときや地下と地上との通信などでは、電波が届きにくくなります。

- ・レーザーユニットを金属製のロッカーの上などに置かないでください。(通報エリアが狭くなります)
- ・ベースユニットのアンテナを垂直に出してください。またレーザーユニットのアンテナも、垂直に立てた状態で使用してください。
- ・レーザーユニットはなるべく電波が届きやすい位置の窓際に置いてください。(テストモード、または監視中の通信/アラームランプの点滅色で電波の状況がわかりますので、電波の届きやすい場所で使用してください)



ベースユニット(車載機)

車のサンバイザーに取り付け、動作させるセンサーの選択や、セキュリティのセット方法を選択できます。またセキュリティセット後は、本機の状態や監視中の状況をレシーバーユニットに伝えます。



1 **モーション(振動)センサーツマミ**
振動センサーの感度を調整できます。(10ページ)

2 **セキュリティランプ**
本機の状態を表示します。本機のセキュリティがセットされてから監視動作にはいるまでの間(遅延時間)は点灯します。また、撃退スイッチが「入」のときは監視中点滅(1秒間に1回)します。

3 **カレントセンサースイッチ**
カレントセンサーを入/切するスイッチです。(10ページ)

4 **撃退スイッチ**
撃退モードを入/切するスイッチです。(11ページ)

5 **遅延時間スイッチ**
セキュリティがセットされてから監視動作に入る(センサーが動作しはじめる)までの時間が選択できます。(12ページ)

6 **オートランプ**
モードボタンで「オートモード」を選択しているときは、エンジンがかかっているときやキーがACCの位置になっているときに点灯します。(13ページ)
また、監視中にセンサーの感知があったときは、セキュリティの解除後の約5秒間、早い点滅で履歴表示します。(14ページ)

7 **モードボタン**
セキュリティのセット方法を選択するボタンです。押すたびに「オートモード」と「マニュアルモード」を切り換えます。(13ページ)

8 **セットボタン**
モードボタンで「マニュアルモード」を選択しているときのセキュリティセットボタンです。(13ページ)

9 **アンテナ**
本機のセキュリティがセットされると、本機の状態や監視中の状況をレシーバーユニットに送信します。(センサーが異常を感知したときには通報します)
本機を使用するときには垂直に出しておきます。

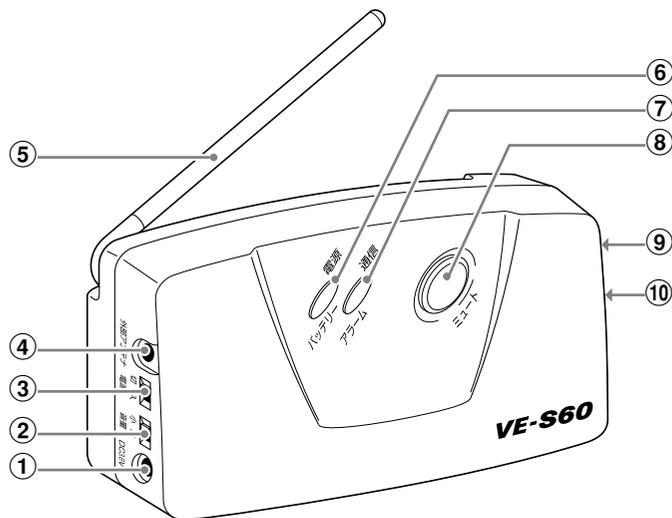
10 **スピーカー**
セキュリティがセットされると、撃退スイッチの入/切に応じたブザーが鳴ります。(13ページ)
また監視中にセンサーの感知があったときは、セキュリティ解除後の約5秒間、ブザーが鳴り履歴表示します。(14ページ)

※モードボタンは、車のエンジンスイッチがACCまたはONのとき(セキュリティ解除中)のみ、操作を受け付けます。

※モードボタン以外の各スイッチ、ツマミ、ボタンは、セキュリティ解除状態、またはセキュリティをセットするまでの間の操作のみ受け付けます。

レシーバーユニット(受信機)

ベースユニット(車載機)から送られてくる信号(電波)を受信します。
異常通報を受信したときは、アラーム音とアラームランプの点滅で知らせます。



① DCジャック

付属のACアダプターを接続します。

② 音量切替スイッチ

アラーム音の音量を、大/小に切り換えます。

③ 電源スイッチ

「入」にすると電源が入ります。

④ 外部アンテナジャック

通常は何も接続しません。

⑤ アンテナ

ベースユニットからの信号(電波)を受信します。アンテナは立てた状態で使用します。

⑥ 電源/バッテリーランプ

電源の状態を点滅(2秒間に約1回)で表示します。

●緑色の点滅…使用している電池が正常な電圧のとき。

付属のACアダプターで家庭用コンセントに接続しているとき。

●赤色の点滅…電池が消耗し、交換が必要なとき。

●消灯…電源スイッチが「切」のときや、電池がなくなったとき。
スリープ機能がはたらいたとき。

⑦ 通信/アラームランプ

電源が正常な状態(電源スイッチは「入」)のときに、ベースユニットから送られてくる信号(電波)の受信状態や通報を点滅で表示します。(17、18ページ)

●緑色の点滅(2秒間に約1回)…監視中にベースユニットから送られてくる信号を受信しているときで、電波の受信状況が良好なとき。

●橙色の点滅(2秒間に約1回)…監視中にベースユニットから送られてくる信号を受信しているときで、電波が届きにくいとき。

●赤色の点滅(1秒間に約4回)…異常通報信号を受信したとき(警報時)。1度異常通報信号を受信すると、ミュートボタンが押されるか、セキュリティが解除されるまで表示を継続します。
※ベースユニットから送られてくる信

号(電波)を受信できないときは、表示しません。スリープ機能がはたらいたときも消灯します。(14ページ)

⑧ ミュートボタン

警報中のアラーム音とアラームランプの点滅を止めるときに押します。(17ページ)

⑨ スピーカー(裏面)

監視中、異常通報を受信したときにアラーム音が鳴ります。

●カレントセンサーが感知したとき…『ピピピッ』が繰り返し(1秒間に約1回)鳴ります。

●ドアセンサーが感知したとき…『ピピピッ』が繰り返し(1秒間に約1回)鳴ります。

●振動センサーが感知したとき…『ピッ』が繰り返し(1秒間に約1回)鳴ります。

※アラーム音は、最初に異常通報信号を受信してから振動センサー、カレントセンサーが感知した場合は最長1分間、ドアセンサーが感知した場合は最長2分間鳴ります。(17ページ) また、スリープ機能がはたらいたときにも『ピーッ』が(約5秒間で)5回鳴ります。(14ページ)

⑩ 電池ブタ(裏面)

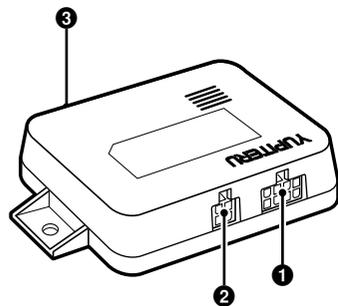
電池で使用するときは、市販の単3形乾電池を3本挿入します。

各部の名称とはたらき

ジャンクションユニット(車載機)

インパネアンダートレーの内側など、車からの振動が伝わりやすい場所に取り付けます。

セキュリティON/OFFの制御や各種センサーでの感知判断、ベースユニットへの通報指示などを行うコントロールボックスです。



- 1 コネクター1
電源ハーネスを接続します。
- 2 コネクター2
ベースユニットを接続します。
- 3 コネクター3
振動センサーを接続します。

警告

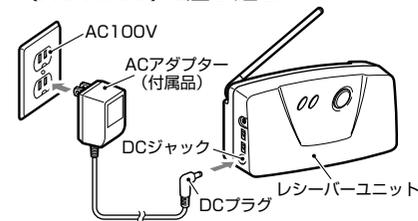
・取り付けには専門知識が必要です。誤った取り付けは、機器を破損するばかりでなく、重大事故の原因となります。取り付けは、お買い上げの販売店またはカーディーラーにご依頼ください。お客様ご自身で取り付けられた場合の保証は受けられません。

電源について

付属のACアダプターによる家庭用電源(AC100V)、または乾電池(単3形アルカリ乾電池×3本)で使用できます。

家庭用電源で使用する

- 1 付属のACアダプターのDCプラグをDCジャックに差し込む
- 2 ACアダプターを家庭用電源(AC100V)に差し込む



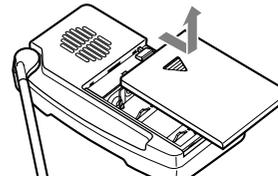
警告

- ・付属のACアダプター以外は、使用しない。また家庭用AC100V以外では使用しない。
 - ・電源コードが傷んだり、コンセントの差し込みがゆるいときは使用しない。
 - ・電源コードを傷つけたり、加工しない。
- 感電や発火の原因になります。

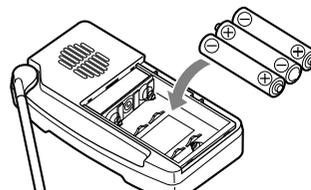
乾電池で使用する

市販の単3形アルカリ乾電池をお買い求めください。また電池の装着は、電源スイッチを「切」にしてから行ってください。

- 1 電池ブタを開ける



- 2 単3形乾電池3本を内部の表示に合わせて入れ、電池ブタを閉める



注意

- ・長期間ご使用にならないときは、乾電池を取り出してください。
- ・種類の異なる電池、古い乾電池を混ぜて使用しないでください。

電池の交換時期

電池の寿命が近づくと、電源/バッテリーのランプが、赤色に点滅します。このようなときは、乾電池を3本とも新しいものと交換してください。

■電池寿命の目安(アルカリ電池使用時)
連続使用で20~30日間(無警報時)

本機のセキュリティをセットする方法には、エンジンスイッチをACCからOFFにすることで自動的にセットされる「オートモード」と、ACC OFF後にセットボタンを押してセットできる「マニュアルモード」があります。

セキュリティをセットする前に、あらかじめ次のことを選択してください。

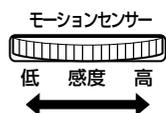
1 センサーについて

本機のセンサーには、振動センサー、カレントセンサー、ドアセンサーの3種類があります。(カレントセンサーは、カレントスイッチにより入/切できます)

- ドアセンサーは、ドア線の接続をしている場合のみ動作します。
- 振動センサーは、別売の振動センサーを追加して取り付けることができます。

振動センサー

車に加えられる衝撃や振動を監視します。振動センサーの感度は、モーションセンサーマミで調整できます。



カレントセンサー

車のドアを開けたときに点灯する車内灯の電流変化を監視します。ドアの開閉にあわせてルームランプが点灯/消灯するようにしないと、感知できません。

ドアセンサー

ドアの開を監視します。

- 本機の振動センサーは、衝撃や高い周波数の振動を感知します。ゆるやかな揺れや傾きを感知することはできません。また振動センサーの感度が高めに設定されているときは、高い周波数の音を感知し、周囲の騒音や振動で反応することがあります。
- 本機のカレントセンサーは、トランクルーム内のランプの点灯など、車内灯の点灯に比べ、電流変化の少ないものには反応しません。このような車種の場合に

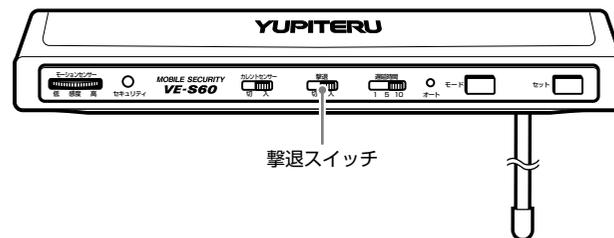
- センサー(カレントセンサーの入/切)の選択
- 動作モード(撃退スイッチの入/切)の選択
- 遅延時間(遅延スイッチ)の選択
- セキュリティのセット方法

※本機は、エンジンスイッチをACC(またはON)にすると、セキュリティは解除されます。

はドア線の接続をしてください。

- 一部の車種やカーナビゲーションなどの電装品を装着している車では、一定時間ごとにコンピューターが働いて電圧が下がると、カレントセンサーが感知して通報および警報を発する場合があります。このような場合は、ドア線の接続を行い、カレントセンサースイッチを「切」にして使用してください。(ドア線の接続によりドアの開の検出ができます)
- 本機とユピテル製エンジンスターターを併用する場合は、カレントセンサースイッチを「切」にしてください。本機の監視動作中、まれに、カレントセンサーが感知し警報/通報をする場合があります。(ドアの検出を行う場合は、ドア線の接続を行ってください)なお、エンジンスターターでエンジンを始動すると、本機のセキュリティは解除されます。また、他社のエンジンスターターでACC電源の制御をしていないものとの併用はできません。
- カレントセンサーはカレントセンサースイッチで入/切できますが、選択はセキュリティ解除状態またはセキュリティをセットする前に行ってください。またハザードランプを点灯させて駐車する場合は、カレントセンサースイッチを「切」にしてください。
- サイレン(またはホーン)を鳴らしている間は電流変化が大きいいため、カレントセンサーの検出による警報や通報の変更は行いません。

2 動作モードについて

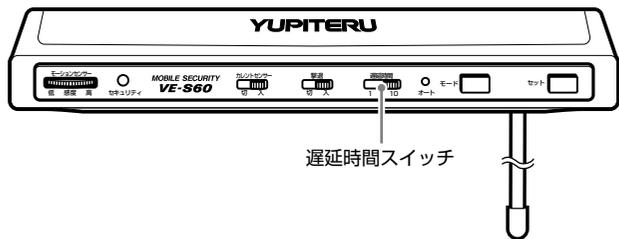


本機が異常を知らせる方法としては、通報と撃退があります。撃退モードは、撃退スイッチで入/切できます。また通報モードは常に動作します。

撃退スイッチ	異常を感知したときの動作		
	車からの警報音	レシーバーユニットへの通報	
撃退 切 入	○	○	センサーが異常を感知すると、サイレン(または車のホーン)を鳴らし、レシーバーユニットにも通報します。
撃退 切 入	×	○	センサーが異常を感知すると、レシーバーユニットに通報します。サイレン(または車のホーン)は鳴りません。

- 異常を知らせる通報を受信すると、レシーバーユニットの通信/アラームランプが赤色の早い点滅となり、感知したセンサーに応じたアラーム音が鳴ります。(17ページ)
- 撃退スイッチの入/切の変更は、セキュリティ解除状態またはセキュリティをセットする前に行ってください。

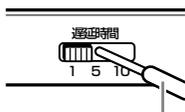
3 遅延時間スイッチについて(ディレイ機能)



遅延時間とは、セキュリティがセットされてからセンサーが監視動作にはいるまでの時間で、荷物の積みおろしなど、ドアをロックし駐車状態になるまでの時間を想定しています。この間は、ドアの開閉、車の乗降などをして警報や通報をしません。

電動ファン搭載車*やターボタイマーを取り付けている車で本機をお使いになるときは、ファンが回り続ける時間やターボタイマーのアフターアイドル時間を見込んで、遅延時間スイッチを切り換えてください。

- 遅延時間は、車や状況に合わせて設定してください。
- 遅延時間経過後で、電動ファンが回り続けている場合や、ターボタイマーのアフターアイドルリングが動作している場合は、警報や通報をしてしまいます。
- 遅延時間の切り換えは、セキュリティ解除状態、またはセキュリティをセットする前に行ってください。



細い棒などを使って切り換えます。

- 1: セキュリティをセットした後、1分後にセンサーが動作します。
- 5: セキュリティをセットした後、5分後にセンサーが動作します。
- 10: セキュリティをセットした後、10分後にセンサーが動作します。



*電動ファン搭載車…高速走行や真夏の走行後に、エンジンがある程度過熱していると、エンジン停止後も冷却のためにファンが回り続ける車種です。

4 セキュリティのセット方法

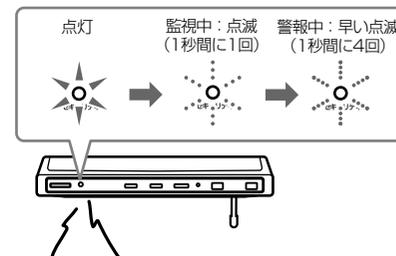
オートモード	マニュアルモード
1 車のエンジンスイッチをACCまたはONにし、モードボタンを押す	
<p>オートランプを点灯させます。</p>	<p>オートランプを消灯させます。</p>
2 エンジンスイッチをACCからOFFにする	2 エンジンスイッチをACCからOFFにする
<p>セキュリティがセットされます。</p>	3 セットボタンを押す
	<p>セキュリティがセットされます。</p>
セキュリティがセットされると ベースユニットのスピーカーからブザー音が鳴り、セキュリティランプが点灯します。 ●撃退スイッチ「入」のとき…「ピピピッ」 ●撃退スイッチ「切」のとき…「ピッ」	

- モードボタンは、車のエンジンスイッチがACCまたはONのとき(セキュリティ解除中)のみ、操作を受け付けます。
- モードボタンを押すたびに、オートモードとマニュアルモードに切り換わります。
- オートモードを選んでいるときは、エンジンスイッチがACCまたはONの間、オートランプが点灯します。
- エンジン始動中(エンジンスイッチがONまたはACC)は、セキュリティをセットすることはできません。

参考

セキュリティがセットされると、遅延時間経過後、監視動作に入ります。また、監視動作中にセンサーが感知すると、警報するとともにレシーバーユニットに通報します。

- 撃退スイッチ「入」時のセキュリティランプの点灯状態は、右のようになります。
- 撃退スイッチ「切」時には、遅延時間経過後、セキュリティランプが消灯し、警報/通報中でもセキュリティランプは点滅しません。



5. セキュリティの解除方法

車のエンジンスイッチをACC(またはON)にする



本機は、エンジンスイッチをACC(またはON)にすると、セキュリティが解除されます。

- 監視動作中の車に乗ると、センサーが感知して仮警報が鳴りますが、約10秒以内にエンジンスイッチをACC(またはON)にすることでセキュリティが解除され、本警報は鳴りません。(16、17ページ)

■<監視中の履歴表示について>

本機は、監視中にセンサーの感知があったときは、セキュリティ解除後の約5秒間、オートランプの早い点滅(1秒間に約4回)とブザー(1秒間に約1回『ピーッ』)が鳴り、履歴として表示します。

6. スリープ機能について

セキュリティ設定後、14日間エンジンが始動(ACCまたはONの検出)されないと、車のバッテリーの消耗を防ぐため、スリープ機能がはたらきます。

スリープ状態になると、本機の監視動作が停止し、ベースユニットやレシーバーユニットのランプが消灯します。

- スリープ機能がはたらくときは、レシーバーユニットから『ピーッ』音が約5秒間に5回鳴ります。

■<スリープ機能を解除するには>

エンジンを始動させる(エンジンスイッチをONまたはACCにする)と、スリープ機能は解除されます。

7. テストモードについて

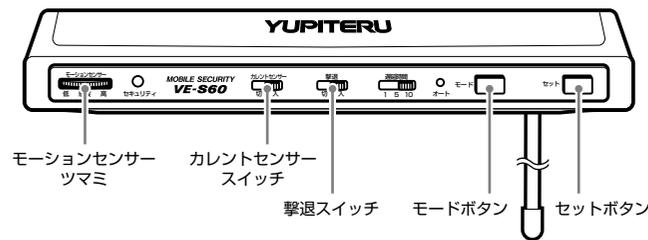
テストモードにすると、配線後のチェックや各センサーの感知テスト、レシーバーユニットへの通信テストができます。振動センサーの感度調整も、このテストモードで行うと便利です。

■<テストモードにするには>

レシーバーユニットへの通信テストをするときは、レシーバーユニットの電源を入れておきます。

- 1 車のエンジンスイッチをACCまたはONにする
- 2 モードボタンを押して、「オートモード」に設定する
- 3 ACCをOFFにする
- 4 セットボタンを約2秒間以上押す

- 約5秒後にセキュリティランプが点灯します。(オートランプは消灯)
- 以上の操作でテストモードになります。テストモードになると、ベースユニットのスピーカーから『ピーッ』という音が鳴り、テストモード中はオートランプを点滅(1秒間に約1回)します。



■<各センサーの感知テストとレシーバーユニットへの通信テスト方法>

テスト項目ごとに、ベースユニットのカレントセンサースイッチと撃退スイッチを次のように切り換えて行います。

テスト項目	スイッチの設定		テスト方法
	カレントセンサースイッチ	撃退スイッチ	
カレントセンサー	入	入	ドアを開けるとサイレン(またはホーン)が約0.2秒間鳴ります。ドアの開閉にあわせてルームランプが点灯/消灯しないと、感知できません。
振動センサー	切	入	車に振動や衝撃を与えるとサイレン(またはホーン)が約0.2秒間鳴ります。振動センサーの感度はモーションセンサーツマミで調整できます。 ※1度センサーが感知すると、その後の約5秒間は、次の振動を感知しません。
ドアセンサー	入	切	ドアを開けるとサイレン(またはホーン)が約0.2秒間鳴ります。(ドア線の接続を行っている場合のみ)
通信テスト	切		セットボタンを押すとレシーバーユニットへ信号を送ります。レシーバーユニットは、受信すると『ピッ』と鳴ります。

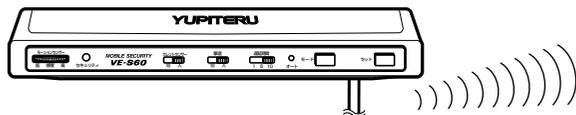
■<テストモードを解除するには>

車のエンジンスイッチをACC(またはON)にすると、テストモードを解除できます。

撃退スイッチの「入」または「切」により、次のように動作します。

撃退スイッチ「切」の場合

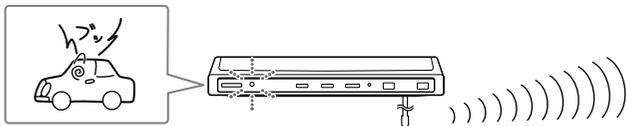
センサーが異常を感知すると、レシーバーユニットに通報します



異常を感知したセンサーを、レシーバーユニットに知らせます。

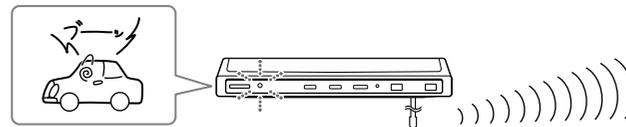
撃退スイッチ「入」の場合

センサーが異常を感知すると、サイレンまたはホーン(接続している場合)を約0.2秒間鳴らし仮警報します。またレシーバーユニットに通報します



セキュリティランプが早い点滅(1秒間に約4回)するとともに、異常を感知したセンサーをレシーバーユニットに知らせます。

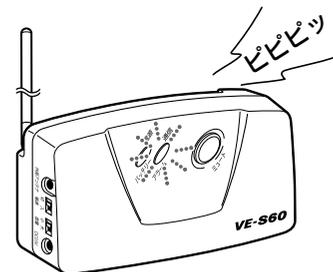
最初にセンサーが異常を感知してから、10秒間経過(約10秒間以内にエンジンスイッチがACCまたはONにならないとき)すると、本警報になり、サイレンまたはホーン(接続している場合)を以下の時間だけ鳴らします。



セキュリティランプが早い点滅を継続(最長60秒間)するとともに、異常を感知したセンサーにより、以下の時間、サイレンまたはホーンを鳴らして警報します。

- カレントセンサーが感知した場合…30秒間
- ドアセンサーが感知した場合…30秒間
- 振動センサーが感知した場合…10秒間

通信/アラームランプが赤色に変わり、早い点滅(1秒間に約4回)します。また感知したセンサーに応じたアラーム音が、次のように鳴ります。



- カレントセンサーが感知した場合…「ピピピッ」を1回として、最長1分間、繰り返し警報します。
- ドアセンサーが感知した場合…「ピピピッ」(カレントセンサーと同じ警報音)を1回として、最長2分間、繰り返し警報します。
- 振動センサーが感知した場合…「ピッ」を1秒間に1回として、最長1分間、繰り返し警報します。

■<ベースユニットについて>

- 最初にセンサーが異常を感知してから、10秒以内にエンジンスイッチがACCまたはONになったときは、セキュリティを解除し、本警報は鳴りません。(車に乗る場合は、約10秒間以内にエンジンスイッチをACCまたはONにしてセキュリティを解除してください)
- エンジンスイッチがACCまたはONになったときは、本警報中でも警報を中止し、セキュリティを解除します。(セキュリティ解除をレシーバーユニットに知らせます)
- 本警報の警報時間経過後は、監視動作に戻ります。

■<レシーバユニットについて>

- アラーム音は、音量スイッチで大/小に切り換えできます。
- 警報(アラーム音とアラームランプの点滅)は、ミュートボタンを押すと、一時的に止まります。
- 警報時間経過後は、監視の動作に戻ります。
※1度異常を知らせる通報信号を受信すると、通信/アラームランプは赤色の早い点滅表示となり、セキュリティが解除されるか、ミュートボタンを押すまで表示を継続します。
- 振動センサー感知後、カレントセンサーまたはドアセンサーが感知した場合は、センサーに応じて警報も変化します。
※サイレン(またはホーン)を鳴らしている場合には、電流変化が大きいので、カレントセンサーの検出による通報(警報)の変更は行いません。

センサーが異常を感知すると(警報/通報)

■<通報エリア(通信距離)について>

セキュリティがセットされ監視している間、レーザーユニットはベースユニットから定期的に送られてくる信号を受信し、受信状態を表示します。(レーザーユニットの電源スイッチが「入」のとき)

通信/アラームランプ	電波(信号)の受信状況
緑色の点滅 (2秒間に約1回)	良好
橙色の点滅 (2秒間に約1回)	電波が届きにくいとき
赤色の早い点滅 (1秒間に約4回)	異常を知らせる通報信号を受信したとき(警報時)

※信号(電波)を受信できないときは、点滅表示しません。(センサーが異常を感知しても、ベースユニットからの通報を受信できません)

- 通報エリアは、直線見通し距離で約200～300mですが、建物などの条件により変わります。(ビルの陰に入ったときや、地下と地上との通信では、電波が届きにくくなります)
- レーザーユニットは、できるだけ電波の届きやすい位置の窓際に置いてください。(テストモードまたは監視中の通信/アラームランプの点滅色で電波の受信状況を確認し、電波の届きやすい場所で使用してください)
- レーザーユニットは、金属製のロッカーの上などに置かないでください。(電波を受信しにくくなります)
- レーザーユニットのアンテナは垂直に立てた状態で、できるだけ高い位置で使用してください。

アフターサービスについて

① 保証書(別に添付してます)

保証書は、必ず「販売店名・お買い上げ年月日」などの記入をご確認のうえ、保証内容をよくお読みのと、大切に保管してください。

② 保証期間

お買い上げの日から1年間です。

●対象部品

機器本体(消耗部品を除く)

③ 修理を依頼されるとき

「故障かな?と思ったら」の点検をしていただいても、なお異常のあるときは、故障状況をなるべく詳しくご連絡ください。

●保証期間中のとき

恐れ入りますが、お買い上げの販売店に、保証書を添えて製品をご持参ください。保証書の規定に従って修理いたします。

●保証期間が過ぎているとき

取り付け販売店に、まずご相談ください。修理によって機能が持続できる場合は、お客様のご要望により有料修理いたします。

「取り付け・接続説明書」や本書にしたがった正常な取り付け・接続、使用状態で製品に故障が生じた場合は、製品の保証書にしたがって修理いたします。ただし、上記以外の取り付け・接続、使用状態による付随的損害の補償については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

④ アフターサービスなどについて ご不明の点は

お買い上げの販売店、または最寄りの弊社営業所・サービス部(添付の一覧表をご参照願います)にお問い合わせください。

⑤ レーザーユニットのスペアについて

レーザーユニットを紛失や破損したときは、スペアのレーザーユニットをお買い求めいただけますが、新しくIDコードを設定するため車載機もお持ちいただく必要があります。詳しくは、お買い上げの販売店、または弊社営業所・サービス部にお問い合わせください。

故障かな？と思ったら

修理をご依頼になる前に、もう1度次のことを確認してください。

症 状	チェック項目(ベースユニット)	チェック項目(レシーバーユニット)…受信しない場合
車のエンジンを切っても、セキュリティがセットされない、動作しない	<ul style="list-style-type: none"> ●車のエンジンスイッチがACCまたはONの位置になっていませんか。ACCまたはONのときは、セキュリティをセットできません。エンジンスイッチをOFFにしてください。 ●セキュリティセット方法をマニュアルモードに設定していませんか。マニュアルモードに設定しているときは、ACCからOFFにした後、セットボタンを押すことでセキュリティがセットされます。 ●車のバッテリーが弱っていませんか。 ●配線や接続が正しく行われていますか。 	
振動を与えても、ドアを開けても、サイレン(ホーン)が鳴らないレシーバーユニットに通報しない	<ul style="list-style-type: none"> ●セキュリティが監視状態になっていますか。セキュリティセット後、各センサーが動作(監視)に入るのは、遅延時間経過後となります。遅延時間は遅延スイッチで選択している[1分/5分/10分]のいずれかです。 ●スリープ機能がはたらいていませんか。セキュリティ設定後、14日間エンジンの始動がないと、バッテリー保護のため、本機の動作を停止します。スリープ機能はエンジンを始動すると解除されます。 ●撃退スイッチが「切」になっていませんか。(サイレンやホーンが鳴らない場合) 「切」のときはレシーバーユニットへの通報のみとなり、サイレンや車のホーンは鳴りません。 ●振動センサーの感度が低すぎませんか。モーションセンサーツマミで調整してください。 ※本機の振動センサーは、衝撃や高い周波数の振動を感知します。ゆるやかな揺れや傾きは感知できません。 ●カレントセンサーが「切」になっていませんか「切」のときは、カレントセンサーは感知しません。 ●車の車内灯が、ドアの開閉に連動して、点灯/消灯しますか。カレントセンサーは車内灯の点灯による電流変化を監視します。このため、電流変化がゆるやかな車内灯は検出できませんので、このような車種では、ドア線の接続を行ってください。 ●ドア線の接続が正しく行われていますか。 	<ul style="list-style-type: none"> ●電源スイッチが「切」になっていませんか。 ●電池が消耗していませんか。(電池で使用している場合) ●ACアダプターのプラグやジャックがはずれていませんか。(家庭用電源で使用している場合) ●信号(電波)が届いていますか。 信号の受信状態は通信/アラームランプの点滅色で確認できます。電波が届かないときは点滅しません。
異常がないのに、通報やサイレンが鳴る	<ul style="list-style-type: none"> ●振動センサー(モーションセンサーツマミ)の感度が高すぎませんか。感度が高いと、周囲の騒音や振動で反応することがあります。 ●一部の車輻やカーナビゲーションなどの電装品を装着している車では、一定時間ごとにコンピューターが働いて電圧が下がると、カレントセンサーが感知して通報および警報を発する場合があります。このような場合は、ドア線の接続を行い、カレントセンサースイッチを「切」にして使用してください。(ドア線の接続によりドアの開の検出ができます) 	

仕様

■レシーバーユニット

受信周波数 : 426.100MHz
電波型式 : F2D
使用電池 : 単3形乾電池3本
外部入力電圧 : 3.45V~5V
動作温度範囲 : -10℃~+50℃
寸法 : 120mm(幅)×65mm(高さ)×35mm(奥行き)
重量 : 100g(電池含まず)

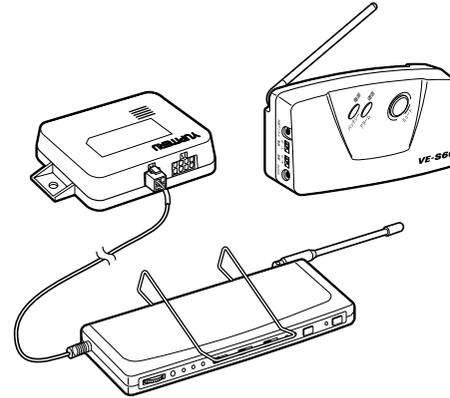
■ベースユニット

適合技術基準 : 特定小電力無線局テレコントロール用無線設備
(RCR STD-16)
送信周波数 : 426.100MHz
電波型式 : F2D
送信出力 : 1mW
送信時間制限 : 送信時間3秒以内
送信休止時間2秒以上
動作温度範囲 : -20℃~+70℃
寸法 : 170mm(幅)×15mm(高さ)×60mm(奥行き)
重量 : 165g(コード含む)

■ジャンクションユニット

電源電圧 : 12V車専用
消費電流 : 警報中 280mA(サイレン含む)
待機中 17mA(スリープ中 8mA以下)
動作温度範囲 : -20℃~+60℃
寸法 : 97mm(幅)×28mm(高さ)×75mm(奥行き)
重量 : 105g

■別売品…振動センサー(追加用) A-69 標準価格2,000円(税別)



VE-S60

このたびは、ユピテルの自動車盗難警報・通報装置をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

ご使用前に、この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。

なお、お読みになられたあとも、大切に保管してください。

また本機は、電波法第四条「技術基準適合証明を受けた無線局」および電波法施行規則第六条「特定小電力無線局」に該当するテレコントロールシステムです。

本機はセンサーにより本機取り付け車の異常を感知し警報または通報をする装置です。万一発生した盗難事故、いたずらなどによる損害・被害に対して保証はできませんので、あらかじめご了承ください。



■取り付けには、専門知識が必要です。
誤った取り付けは、機器を破損するばかりでなく、重大事故の原因となります。取り付けは、お買い上げの販売店またはカーディーラーにご依頼ください。お客様ご自身で取り付けられた場合の保証は受けられません。

目次

はじめに	ご使用前に -----	2
	各部の名称とはたらき -----	4
	電源について -----	9
操作方法	セキュリティの 設定と解除について -----	10
	1. センサーについて -----	10
	2. 動作モードについて -----	11
	3. 遅延時間スイッチについて -----	12
	4. セキュリティのセット方法 -----	13
	5. セキュリティの解除方法 -----	14
	6. スリープ機能について -----	14
7. テストモードについて -----	14	
警報/通報	センサーが 異常を感知すると(警報/通報) --	16
その他	アフターサービスについて ---	19
	故障かな?と思ったら -----	20
	仕様 -----	22